

北西大西洋漁業機関（^ナ^フ^ォNAFO）「年次会合」の 結果について

1 北西大西洋漁業機関

北西大西洋における底魚等の資源管理を行う国際機関。
メンバーは、日本、カナダ、EU、米国等13ヶ国・地域。

2 日時・場所

9月20日（月）から24日（金）まで、ウェブ会議形式で開催。

3 我が国出席者

農林水産省飯野顧問（政府代表）ほか、水産庁、外務省等。

4 結果

(1) 令和4年（2022年）の資源管理措置

令和3年（2021年）と同等の漁獲割当を確保。

〔カラスガレイ：1,205トン（令和3年（2021年）は1,253トン）
アカウオ：550トン（令和3年（2021年）と同量）〕

(2) 脆弱海洋生態系の保護区（禁漁域）の見直し

冷水性サンゴ等の脆弱海洋生態系の保護のため、最新の科学的評価に基づき禁漁域を拡大（漁業への影響が最小限となるよう漁場を避けて設定）。

(3) 次回会合

令和4年（2022年）9月にポルトガルで開催予定。

[参考] 我が国主要魚種の漁獲割当（トン）

魚種	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
カラスガレイ	1,253	1,255	1,286	1,253	1,205
アカウオ	550	550	550	550	550